

週刊ウイングトラベル *Wing Travel*
Weekly

No. 2792

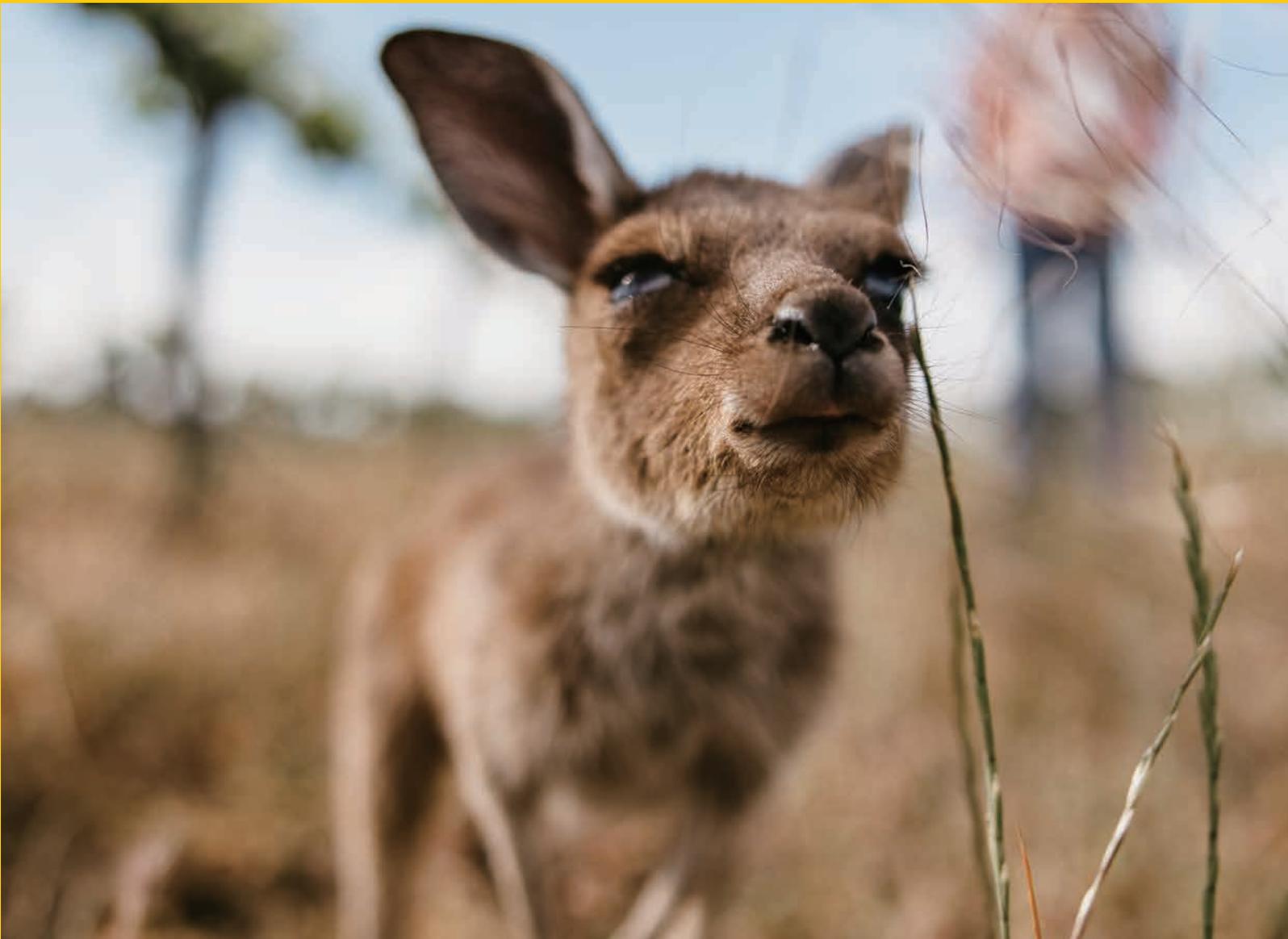
毎週月曜日発行：1部330円(消費税込) 1年間13,200円(消費税込) ●国土交通省交通運輸記者会加盟
発行所/航空新聞社 The WING Aviation Press ●〒107-0051 東京都港区元赤坂1-7-8ビルウエスト3734階 ●TEL 03-3796-6646 FAX 03-3796-6645

増刊号 2024.5.27

www.jwing.net
mail@jwing.net

オーストラリア 教育旅行特集2024

学生の探究心を刺激するオーストラリア



オーストラリア政府観光局

日本・韓国地区局長 **デレック ベインズ**



オーストラリアを訪れる日本人旅行者、日本を訪れるオーストラリア人旅行者が共に増加傾向にあり、双方向の交流が順調なのはうれしい限りです。今後オーストラリア政府観光局は、コロナ禍以前のように教育旅行の受け入れにも

積極的に取り組んで参りたいと考えています。

日本との時差がほとんどなく、恵まれた気候のオーストラリアは、雄大な自然と開放的な雰囲気にも満ちています。フレンドリーな動物たちとの触れ合い、6万年以上の歴史を

持つ先住民の文化体験をはじめ、オージーとの交流を通してグローバルズムを感じ取ることもできるでしょう。さまざまな学習要素は多くの学生にとって興味深く、彼らの探究心をかき立てるものと確信しています。海外での教育旅行をお考えの学校様は、ぜひ次回の渡航先に魅力あふれるオーストラリアをご検討いただければ幸いです。

学生の探究心を刺激する オーストラリアへの教育旅行

旅行が物見遊山から体験重視型に移行して久しく、教育旅行でも敏感にこのトレンドを取り入れてきた。しかし時代は今、探究的な学習へと発展し、教育旅行に携わる現場も急速な変化への対応が求められている。教育旅行を探究学習の機会として機能させるため、また教育旅行をオーストラリアへ誘致するためには何が必要なのだろうか。

行きやすさの条件そろそろオーストラリア

日本人のアウトバウンドがコロナ禍以前に戻り切らないなか、オーストラリアへの日本人渡航者数は順調に推移している。2023年、日本人の海外渡航者数は962万人で、対2019年のリカバリー率は48%。これに対し、オーストラリアへの日本人渡航者数は29万7720人で、同58%と全体を上回った。さらに、直近12カ月(2023年4月～2024年3月)の数字は34万3500人と増加傾向にある。

その背景には航空路線の回復の速さと路線網の充実が挙げられる。両国間のフライト数は、2024年6月時点で2019年

比148%となる予定。加えて、羽田、成田、関空からオーストラリアの6都市へ伸びる路線網の充実もオーストラリアの強みだ。航空会社も5社が乗り入れており、直近では4月からジェットスターが大阪(関空)・シドニー間(週3便)の運航を開始した。

こうした状況の下、オーストラリアへの教育旅行者数も順調に伸びており、渡航先としての絶大な人気を維持しているのが伺える。その条件として、治安の良さ、衛生環境や医療環境の充実といった安全面における信頼の大きさはオーストラリアならではのメリット。時差がわずか1時間(夏時間を採用している州は2時間)以内と少ないことも、学生の体調や無駄のない時間管理、日本との連絡の取りやすさという意味で重視できる。また主要都市の多くは1



年を通して温暖で過ごしやすい点も好条件と言えよう。「行きやすさ」という意味でこれほど条件が整った海外デスティネーションはそう多くはない。

大使館・領事館リスト

- [在オーストラリア日本国大使館](#)
- [在シドニー総領事館](#)
- [在パース総領事館](#)
- [在メルボルン総領事館](#)
- [在ブリスベン総領事館](#)
- [在ケアンズ領事事務所](#)

1	安心・安全	治安・衛生・医療に安心感	政治体制が安定しているオーストラリアは、先進国でもトップクラスの治安の良さを誇る。水道水の飲料はもちろん、食事や宿泊施設などの衛生管理も整っており、主要都市では日本語が通じる病院もある。
2	アクセス	日本から主要都市へ直行便	日本とオーストラリア間は、主要都市間のフライトが充実。最も近いケアンズは約7時間、シドニーでも約9時間のフライトで、夜便を利用すれば、翌日の午前中からすぐに活動することができる。
3	時差	時差ボケなしで無駄なく行動	日本の南に位置するオーストラリアはほとんど時差がない。東部が+1時間、西部が-1時間で、夏時間でも最大時差は2時間。そのため体調に無理のない旅程を組むことができ、有意義に行動できる。
4	気候	広大な国にさまざまな気候帯	南半球に位置するオーストラリアは、日本と季節が反対で、地域によって気候帯が異なる。北部は1～3月に雨季となるが、熱帯雨林の景観が鮮やか。南部の主要都市は温暖で、1年を通じて快適だ。
5	多民族	多民族・異文化を肌で実感	さまざまな民族が共存するオーストラリア。人種の異なる人々が互いの文化を理解・尊重している様子は、学生にとって大いに刺激的だ。今後の国際社会を担う学生にとって、グローバルな視野を養える。

探究学習の鍵は 十分な事前事後学習

2022年度からの学年進行で実施された新学習指導要領が3年目を迎えた。同要領のポイントの1つが探究的な学習だ。探究学習とはすなわち、主体的・対話的に深く学ぶということで、これからの予測困難な時代に「生きる力」を養うことを目的としている。今後は何を学ぶかだけでなく、どう学ぶかというアクティブ・ラーニングが学習のスタンダードになっていくだろう。

教育旅行、なかでも修学旅行は探究学習を実践する場として最適だが、「それはあくまでもやり方次第」と言い切るの、晃華学園中学校高等学校の安東峰雄先生。中高一貫の女子ミッションスクールである同校では、中学1年生からさまざまな教育機会ですべて「課題の発見、分析、実行、見つけ直す」という探究プロセスを意識づけさせ、高校3年生の4月に実施する修学旅行をその集大成と捉えてきた。修学旅行と探究学習の相性を高めるために必要なのは、「どれだけ事前事後の学習時間を確保できるかにかかっている」と主張する。

同校では高校1年生の3学期から事前学習を開始。SDGsを中心とする観点でグループごとに課題を見つけ、考察、発表



安東峰雄先生

することで教員を含む参加者全員がテーマを共有していく。事後学習は各グループがまとめた記事を新聞制作という成果物として発表し、これらすべてのプロセスをおよそ一年以上かけて行う。培ってきた探究プロセスを土台に、自ら見つけたテーマを深く学ぶことで、「設定したテーマを自分



Tourism and Events Queensland



事前事後学習を展示

事として捉えられるようになることも大切な学び」と強調した。

学校を主役に 旅行会社と現地がサポート

旅行業界での勤務経験をもつ安東先生は「教育の一環としてその旅行をいかに意義深いものにするか、学校と旅行会社と現地とで作り上げていくもの」と言明する。そのためにも教員は旅行会社のお客様ではなく主催者としての自覚が求められ、旅行会社は価格競争ではなく学校のサポーターとしての役割をより意識した対応が必要

となる。現地サイドに関しても、学生向けの素材をさまざまな形で提供しつつ、「教員に向けても指導用資料を用意するなど事前事後学習のサポートに力を入れることで探究的な学習の受け皿として付加価値を高めていくのが望ましい」と提言した。

広大な国、オーストラリアには多彩な気候帯、世界遺産を含む自然環境、多民族国家による多種多様な文化に加え、科学や鉱業、野生の動植物、歴史、宇宙など学生の興味をかき立てる切り口が無数にある。また、現地校の訪問やファームステイといったオーストラリアならではのプログラムでコミュニケーション能力を磨いたり、英語圏の国でグローバルな視野を養ったりと、これからの未来を生きる学生にとってかけがえのない機会を提供することができる。

オーストラリア政府観光局では、現地の最新情報を自らのペースで学べる機会として、業界向けオンライン学習プログラムを提供。JTBは今年2月、中学校・高等学校を対象とする探究学習プログラムを立ち上げてサポートに乗り出しており、業界でも目立った動きが出てきている。私立と公立では予算も状況も異なるが、教育旅行は未来のリーダー育成につながることも視野に入れ、旅行業界全体で一歩踏み込んだ取り組みを進めるべき時に来ていると言えそうだ。

オーストラリアが教育旅行先に選ばれる10の理由

6	英語圏	交流を通じ 学習意欲を刺激	異民族同士の会話が多いことから、英語が分かりやすく、非英語圏の人たちに対する態度も寛容的。学校訪問やファームステイなどの交流を通して生きた英会話を実践でき、学習意欲向上も期待できる。
7	学習素材	独自の素材を 多彩にアレンジ	独自の進化を遂げたオーストラリアでは、他国では見られない大自然や固有の動植物と触れ合える。先住民アボリジナルビブルの歴史や文化も興味深い。福祉の現状や企業訪問等のテーマ設定も可能だ。
8	世界遺産	ユニークな 世界遺産で体験学習を	オーストラリアは、複合遺産を含む自然遺産の数が世界最多。世界最大級の一枚岩や珊瑚礁、熱帯雨林、奇岩群などがあり、いずれもアクティビティを通じて体験的かつ探究的な学習機会を得られる。
9	ハード	受け入れ施設に 豊富な選択肢	教育旅行先として人気の都市がいくつもあり、どの都市も宿泊施設が充実。エコノミーからラグジュアリーまで、予算やグループの規模に応じて選べる。ファームステイや研修センターなども需要が高い。
10	ホスピタリティー	本物の交流を 体験	オーストラリアとは国家間の関係が良好で、オーストラリア人には親日家も多い。日本人や日本語に対する関心も高く、交流も深めやすい。学校訪問やファームステイなど最良の機会を設けられる。

岡山学芸館高校は、教育の4本柱として人間力、進学力、文武両道に加え国際理解力を掲げている。英語科ではカリキュラムにクラス全員1カ年の留学が組み込まれており、また普通科の生徒たちにも、海外研修の選択肢を複数用意するなど、学校をあげて語学教育やグローバル教育に力を入れている。併設する岡山学芸館清秀中学校も同様に世界で活躍できる立派な日本人の育成に向けて教育をおこなっている。今年3月にはオーストラリア語学研修を中高合同で実施。参加生徒たちはクイーンズランド州ケアンズで、異文化体験や英語学習など刺激に満ちた2週間を送ることになった。



オーストラリア・ケアンズで 2週間の語学研修旅行

聴く・話す英語力を鍛え、世界遺産の大自然を満喫

春休みを利用して32名が参加

春休みを利用した今回のオーストラリア語学研修は普通科および中学3年生の生徒を対象に実施したもので、男女同数の32名が参加した。32名の中には中高一貫の中学3年生も3名含まれている。岡山学芸館高校では全校生徒が参加する修学旅行は行わず、希望者を募って研修旅行を実施しており、国内研修や海外研修から希望する研修を選択して参加することができる。海外研修ではオーストラリアの他、台湾やシンガポール、インド、カンボジア、フィリピンなどさまざまな選択肢が用意されている。

オーストラリアは、英語学習の目的地として過去にも研修を実施してきた実績があるがケアンズでの実施はこれが2回目。コロナ禍で中断していた海外研修を再開した昨年に続く実施だ。期間は3月15～30日の16日間、このうち現地には2週間滞在した。

教育旅行の受け入れ体制が 充実しているケアンズ

ケアンズを海外研修の目的地に選んだ理由は大きく3つあった。第1に教育旅行の受け入れ体制の充実だ。岡山学芸館・国際教育センターの森真裕美所長はケアンズの受け入れ体制を高く評価。「観光施設はもちろん、現地の教育機関や仲介事業者も含めて団体旅行や教育旅行の受け入れに何十年もの経験があり、対応も組織化されきちんと機能する。現地視察もおこない、安心して生徒たちを送り出せることが確認できた」としている。



第2にケアンズ周辺にある熱帯雨林とグレートバリアリーフの2つの世界自然遺産の存在が挙げられる。世界的に貴重な大自然を体感できるのは、研修目的地としての大きなアドバンテージの一つだ。

第3に岡山学芸館高校にとってアクセスが良好な関西国際空港から直行便が出ており、所要時間的にも距離的にも比較的手頃な目的地である点だ。時間的・距離的な近さは航空運賃にかかる費用の抑制にもつながる。とりわけコロナ禍後は燃油サーチャージを含む航空運賃が高騰している事情を加味しなくてはならない。所長は、「研修旅行は全額生徒の負担。費用の抑制は目的地選定の重要なポイント」と説明する。



授業もみっちり、 英語漬けの2週間

今回の研修旅行は現地滞在14日間のうち、初日のオリエンテーションを含め6日間が終日授業、半日授業が1日だった。語学学校ケアンズ・カレッジ・オブ・イングリッシュ(CCEB)での授業だ。4日間(土日が3日、祝日1日)は終日ホストファミリーと過ごした。その他、グリーン島見学、キュランダ訪問、現地高校訪問が各1日ずつの計3日。生徒は平日はCCEBで英語の授業、週末と祝日は



ホストファミリーと会話。英語漬けの毎日が続いた。また滞在中は全宿泊がホームステイで、生徒は2、3人に分かれてホストファミリーに分宿。授業後に帰宅しても英語漬けの時間は終わらない。

これは「英語で英語を学ぶという貴重な体験をたっぷり経験してもらうのに加え、英語の先生やホストファミリーと接する時間をなるべく増やすことで、生徒たちが英語を使う場面をなるべく多くし、聴く力と話す力を鍛えるのが狙い」(森所長)だったからだ。

学校訪問では 能動的な学びも経験

ケアンズには日本の高校生との交流を受け入れる学校の受入環境がある。今回は公立校のゴードンベイル・ステイト・ハイスクールを訪問し現地の生徒と英語でコミュニケーションしながら交流を深めた。現地の生徒とパディを組み学校内を案内してもらったり、現地の生徒たちと即席のチームを作り、バスケットボールやバレーボール、バドミントンを競ったり、若者同士らしい交流をおこなった。



また現地の生徒たちに、岡山市の特徴や岡山学芸館高校の紹介を英語でおこなったほか、事前に準備していった「ソーラン節」を披露して喝采を受けた。こうした経験を積み重ねることで「現地生徒たちから刺激を受けたり受動的に学んだりするだけでなく、自分たちで日本文化を紹介するなど情報発信することで、能動的な学びを身につけるきっかけになったことを期待したい」（森所長）。

海外研修を通じて得た学びや成果については、小グループに分かれてテーマごとに内容をまとめ、帰国後に保護者を招いた報告会で英語でのプレゼンテーションをおこなった。

高まった英語に対する 向上意欲と自信

今回の海外研修は生徒たちにとっては異文化理解や語学力向上へのモチベーションを著しく高めたようだ。帰国後のアンケート回答からは、「聞き取りができなかった時に軽々OKと言ってしまったこと、英語を間違えるのを恐れてホストファミリーの人とあまりしゃべれなかったこと。この2つの反省点を思い出して英語の勉強を頑張ろうと思う」や「オーストラリアの人と話してみて、自分の発音では伝わらないことがあった。時々発言をためらってしまうことがあったから、そこを改善していきたい」、「まだまだ知らない



英単語がたくさんあることを痛感し、今まで以上に英語を勉強したいという思いが湧いている」などのコメントが見られる。英語の授業やホストファミリーとの会話を通じてもどかしい思いをした経験が、英語力向上の強いモチベーションにつながっていることが分かる。

逆に海外研修旅行を通じて自分の英語力に自信をつけた生徒も多い。「最初の方は大変だったが頑張って聞き取ろうとしていると、だんだん耳が慣れてきて、かなり聞き取れるようになった。また日本語が通じないので英語で話そうとしたのでスピーキング力も身についた」、「完璧な英語でなくても



会話ができることが分かり、英語を話すことに抵抗がなくなった」など手に入れた自信は、今後さらに英語力を高めていく原動力になるはずだ。

異文化理解についても若者らしい柔軟性を発揮した生徒のコメントが見られる。多くの生徒がホストファミリーとの生活のなかで、最初のうちは日本とオーストラリアとの生活文化の違いに驚きや戸惑ったとしているが、すぐに克服。「文化の違いを理解するのが最初は難しかった。なので日本とオーストラリアの文化など様々な違いを考えるきっかけにもなった。」「日本では考えられない価値観を学ぶことができた」と



ポジティブに捉え直せている。「海外で働く夢も大きくなったし、将来の夢も本当になりたいことに変わりそうで行って良かった」と前向きな影響を受けたとのコメントもあった。

森所長は「生徒たちからは、母親が毎日作ってくれるお弁当のありがたみを知ったなど、オーストラリア生活を通じて日本での生活環境のありがたさを再認識し、親への感謝の気持ちを新たにした生徒も少なくない。それも大切な教育効果の一つだろう」としている。

春休みオーストラリア語学研修 日程表

日付	時間	予定	食事	宿泊
3月15日 1日目	13:45	岡山学芸館集合	各自(空港/機内)	機内
	14:00	岡山学芸館からバスで関西空港へ		
	21:00	関西空港発 ジェットスター航空JQ016		
16日 2日目	05:15	ケアンズ空港着 到着後、語学学校CCEBにてオリエンテーション	各自(空港)/ 昼夜ホストファミリー	
	AM	ホストファミリー宅へ		
17日 3日目	AM/PM	ホストファミリーとフリータイム	朝・昼・夜 ホストファミリー	ホームステイ
18日 4日目	AM/PM	CCEB 英語レッスン		
19日 5日目	AM	CCEB 英語レッスン		
	PM	Scavenger Hunt (スカベンジャー・ハント)		
20日 6日目	AM/PM	CCEB 英語レッスン		
21日 7日目	AM/PM	グリーン島見学(グレートバリアリーフ自然保護学習・シュノーケリングまたはグラスボートなど)		
22日 8日目	AM/PM	Gordon vale State High School 訪問		
23日 9日目	AM/PM	ホストファミリーとフリータイム		
24日 10日目	AM/PM	ホストファミリーとフリータイム		
25日 11日目	AM	CCEB 英語レッスン		
	PM	ケアンズ博物館訪問		
26日 12日目	AM/PM	CCEB 英語レッスン		
27日 13日目	AM/PM	スカイレールに乗りし、キュランダ村研修 (レインフォレストステーションにて熱帯雨林自然保護学習、アボリジナル文化体験など)		
	AM	CCEB 英語レッスン		
28日 14日目	PM	英語レッスン/修了式		
	AM/PM	祝日グッドフライデー ホストファミリーとフリータイム		
30日 16日目	12:25	ケアンズ国際空港発 ジェットスター航空JQ015	朝ホストファミリー/ 機内/各自空港	
	18:55	関西空港着		
	23:00頃	関西空港発～岡山着 バスで岡山学芸館へ		

「学びの宝庫」ゴールドコースト

幅広いテーマで探究学習にも最適



AUSTRALIA'S GOLDCOAST.

ビーチリゾートとしての印象が強いゴールドコーストだが、探究学習の場所として幅広いテーマを提供してくれる「学びの宝庫」でもある。高い学習効果が期待できるゴールドコーストでの学びの要素をいくつか紹介したい。

Gold Coast Sustainability Action Report

ゴールドコーストのサステナブルな取り組みを網羅



旅行会社やホテル、アトラクションなど、日本からの訪問者を受け入れる現地サプライヤーで構成する「ゴールドコースト日本観光協会 (JTGC/Japan Tourism Gold Coast)」がゴールドコーストでのサステナブルな活動をまとめたカタログ。探究学習のテーマを設定する上でも大きなヒントを与えてくれるはずだ。

ダウンロードはこちらから
(PDFファイル)



エネルギーや水のリサイクル、食品廃棄削減、CO2排出削減など、テーマごとにゴールドコーストでの取り組みを分かりやすく紹介



会員各企業のサステナブルな活動も詳しく取り上げている

Other Recommendations

先住民アボリジナルの文化を体験 自然や土地とのつながりを感じる場

ジェルガル アボリジナル カルチャーセンター
JELLUGAL ABORIGINAL CULTURAL CENTRE



非営利の先住民コミュニティが運営するカルチャーセンター。3時間の「ジェルガルジャーニーツアー」は、このエリアのアボリジナルの文化や伝統遺産のほか、オーストラリア固有の動植物の自然について見識を深めることができる。ツアーには、アボリジナルのダンス・パフォーマンスや儀式、アボリジナル・アートのワークショップ、アボリジナルの伝説を伝えるガイド付きウォーキングなどが含まれる。

www.jellugal.com.au

自然豊かな安全な環境でSUPを取得 英会話やチームビルディングにも

ゴー パーティカル サップ
GO VERTICAL SUP HIRE



スタンドアップパドルボード (SUP) のレッスンやツアーを提供。あまり波の立たない運河沿いのビーチの浅瀬で、泳げない人でもライフジャケットを着用するので安心。英語のレッスンは英会話の実践にもなる。またイルカやコクチョウ、孔雀などの野生動物に出逢えるチャンスも。1時間のレッスンと1時間のチームビルディングセッションを組み合わせた2時間の商品は、教育旅行の体験プログラムにおすすめ。

govertical.com.au

クルーズに学びの要素をプラス 海洋生物保護や海洋汚染対策を課題に

ザ・ツアー・コレクティブ
THE TOUR COLLECTIVE



リバークルーズやホエールウォッチング、モートン島の一日クルーズに、クジラなどの海洋生物保護や海洋汚染対策など、学びの要素をプラス。英語の解説は生の英語を聴く貴重なチャンス。また事前学習で現地とつないだり、事後学習でより環境への意識を高めたりすることで、探究学習の効果を上げることが可能。実際に参加した多くの生徒が海外に興味を持ち、環境保護への問題意識が高まったと答えている。

thetourcollective.com.au

オーストラリアは英語圏であり親日家が多く、生活面や衛生面でも信頼できる環境が整う。治安も良好だ。加えてクイーンズランド州がある東海岸は温暖な気候にも恵まれ、日本との時差がほとんどないのも特徴だ。このような好条件が揃うクイーンズランド州では、日本からの教育旅行を積極的に受け入れており、さまざまなサポートを行っている。その一環としてクイーンズランド州政府観光局が実施しているのが現地視察旅行だ。学校関係者に、現地の受入環境や学習素材を直接確認する機会を提供し、時差の小ささや自然の豊かさを体感してもらうのが目的で、今回はケアンズシティとグレートバリアリーフ、アサートン高原を中心に視察を行った。



2024年教育旅行・視察研修をケアンズで実施

海外修旅や語学研修の検討校に現地視察の機会を提供

クイーンズランド州政府観光局主催の「2024年オーストラリア・クイーンズランド州教育旅行・視察研修」が、学校の春休み期間を利用して3月18日から23日の6日間の日程で実施された。参加したのは高等学校13校の先生方13名で、このうち公立校が9校、私立校が4校だった。

学習指導要領の改訂で2022年度から「総合的な探求の時間」が始まったことで、学外の社会環境のもとで行う学習にはこれまで以上に注目が集まる。海外教育旅行もそうした「総合的な探求の時間」の舞台として期待される一方で、単なる受け身の海外体験だけでは教育ニーズを満たせなくなっている。このため、語学学習や学校・生徒間交流、ホームステイ/ファームステイ、環境問題やSDGs関連の学習、多民族社会や異文化の体験、大自然の中で学ぶ生態系観察や保護プログラムへの参加など、多様な学習機会を提供できる訪問先を探す動きが強まっている。



そうした状況を反映して、多くの学習機会を用意できるクイーンズランド州への関心は高まっている。今回、海外修学旅行や語学研修旅行の実施を予定し、訪問先としてオーストラリアやクイーンズランド州を検討している学校関係者を対象に参加者を募集した。関心の高さを反映して定員を上回る応募があったが、その中から参加者を北海道、埼玉、神奈川、静岡、大阪、岡山、広島、鳥取、鹿児島などから参加する13校・13名に絞って視察研修を実施した。

今回の視察研修は、ジェットスター航空で成田や関空から7時間～7時間半ほどのフライトで直行できるケアンズを中心としたプログラムが生まれ、ジェットスター航空とケアンズ観光局が協力した。

視察研修の内容は大きく分けて「世界自然遺産の熱帯雨林及びグレートバリアリーフでの自然体験」、「現地学校及び語学学校の視察」、「ファームステイ及びホームビジット体験」の3要素で構成した現地4泊のプログラムだった。



2024年オーストラリア教育旅行視察研修

SCHEDULE

3/18(月)	20:10 ジェットスター航空(JQ26)にて成田空港発
3/19(火)	04:30 ケアンズ空港着 世界自然遺産 熱帯雨林 キュランダ村へ レインフォレストーション・ ネイチャー・パーク スカイレール・レインフォレスト・ ケーブルウェイ
3/20(水)	学校訪問 グレートバリアリーフ (フィッツロイ島)視察 ホームビジット
3/21(木)	語学学校訪問 ハートリス・クロコダイル・ アドベンチャーズ 教育関連業者との ワークショップ
3/22(金)	アサートン高原 学校訪問 ファームステイ体験
3/23(土)	11:20 ジェットスター航空(JQ25)にてケアンズ空港発 17:00 成田空港着

世界自然遺産での自然体験

熱帯雨林

ケアンズシティから車で約30分。キュランダ周辺に広がる熱帯雨林の中にある自然体験



型テーマパークが「レインフォレストステーション・ネイチャーパーク」だ。水陸両用6輪駆動車「アーミーダック」に乗り、30~45分かけて熱帯雨林内を探索。途中で水しぶきを上げながら湖や川に入り、水面から森の生態系を観察する機会もある。アーミーダック・ツアーの前後には、アボリジナルピープルがブーメラン投げやアボリジナルアートなどを教えてくれたり、ダンス鑑賞などの体験も可能。パーク内のミニ動物園でコアラ

やカンガルーなどオーストラリア固有種を間近に観察することもできる。参加者からは「ケアンズの熱帯雨林を見るには素晴らしい施設」との感想が聞かれ、特に生物や生態系の課題研究をしている生徒に体験させたいとの声もあった。

標高約360m

のケアンズハイランドにあるキュランダの町と麓の駅を結ぶケーブルカー「スカイレール・レインフォレスト・ケーブルウェイ」は、途中駅で下車して熱帯雨林の中の遊歩道を散策したり、展望台から広大な熱帯雨林を見晴らすこともできる。「熱帯雨林を上空から見下ろす絶景は記憶に残る体験だった」や「世界遺産を間近に感じられる素晴らしい施設」と参加者にも好評だった。



グレートバリアリーフ

陸上の世界自然遺産である熱帯雨林に対し、海の世界自然遺産である世界最大の珊瑚礁エリアがグレートバリアリーフだ。



今回はケアンズからフェリーで45分の沖合にあるフィッツロイ島を訪問。学校関係者にもよく知られているグリーン島と同じように、教育旅行に適した島だが、グリーン島より規模が大きいのが特徴だ。このため島ではマリンアクティビティだけでなく島内ハイキングを体験することもでき、「海だけでなく山登りもできるので、海に入れない生徒にとっては良いと思う」など選択肢の多さを評価する参加者が多かった。

現地学校及び語学学校の視察

海外教育旅行の増加に伴い、学校訪問や生徒交流の相手先確保の難易度が上がりつつあるのは世界各方面で共通する課題となっている。しかしケアンズには受け入れに積極的な学校があり、教育旅行事業者は地元以太い人脈を持ち仲介機能もしっかりしているため、安心して交流体験を組み込める。また今回の研修視察をアレンジした教育旅行事業者のパノラ・インターナショナル・グループやクレーン・ダンス社は、現地の学校・語学学校との仲介だけでなく、ホームビジットやファームステイ、体験学習プログラムなどの提案も行っている。日本における探求教育の重要性も理解しており、SDGs等のテーマ別プログラムを提案する能力も持っている。

今回訪問した現地高校はマランダ州立高校。自然豊かなアサートン高原にあり、学業面でも優秀な高校だ。オーストラリアの公立校らしく多様な文化や民族的な背景



こんなユニークなT-シャツも

を持つ生徒が集まっている点を評価する参加者もいた。日本語教育にも力を入れており、親日的な環境も学校交流の相手校としての魅力のひとつだ。

語学学校のサンパシフィック・カレッジ・ケアンズ校は創設者である日本人校長が情熱をもって英語教育に取り組んでいるのが特徴。多くの参加者が「日本人学生が学ぶのに、本人も保護者も安心できる語学学校という印象」を抱いたようだ。他にも「私が生徒の時代に参加したかった。今後プログラムを

作るとしたら、絶対に外せない場所で、生徒たちを入れたい学校No.1」「熱い校長先生だった。すばらしい教育理念とそれに裏打ちされた施設に感動」との高評価が多かった。

同じく語学学校であるケアンズ・カレッジ・オブ・イングリッシュ&ビジネスは市中心部にあり便利な立地が特徴。ピース・ルーテル・カレッジはケアンズ郊外の美しい丘陵地帯に立地する専門学校で、校内に本格的なカフェがあるなど充実した施設・設備も魅力の一つだ。

ファームステイ及びホームビジット体験

視察・研修の最後の晩はクレーン・ダンス社の手配でファームビジットを体験。アサートン高原で広大な土地や農場を所有する家族宅に2~4人ずつ分宿し、ホストファミリーと交流した。参加者からは「生きた英語に触れられ、話すことにトライできる、とてもいい経験だった」や「ファームステイは初めてだったのでいい経験になった。飾らないオーストラリアの暮らしを目の当たりにできて興味深かった」といった反応が見られた。

ホームビジットでは、パノラ・インターナショナル・グループの手配でケアンズの家庭

を訪問した。ランチやディナーを共にしながら現地の生活に触れるプログラムで、宿泊を伴わない形で旅程に組み込めるメリットがある。しかしホームステイほど認知度が高く

ない面があり、参加者からも「ホームステイができなくても、ディナーを共にできることを初めて知った」との声も聞かれた。

クィーンズランド州政府観光局では、毎



年1回のペースで学校関係者を対象とする現地視察研修を実施しており、来年はブリスベンとゴールドコーストの視察研修を実施する予定だ。

日本からオーストラリアへのレジャー観光や教育旅行先として人気の高い都市の1つであるケアンズ。羽田空港からケアンズに向けて直接アクセスすることができるのがヴァージン・オーストラリア航空のフライトだ。同社は旅客の視点に立った付加価値の高いサービスを提供してくれるほか、ケアンズからオーストラリアの主要都市にも円滑に接続することができるなど、グループ旅行の利用においても使い勝手の良いものとなっている。



羽田からケアンズへ一直線にアクセス ヴァージン・オーストラリア航空

好きな食べ物を機内に持ち込み 快適なフライトを

乗務員のきめ細やかなサービスも定評

ヴァージン・オーストラリア航空の羽田-ケアンズ線は同社の最新機材であるボーイング737-8型機を使用する。教育・団体旅行での利用が想定されるエコノミークラスを含め、座席数は全176席となっている。エコノミークラスのシートピッチは最大31インチ(75cm)、シート幅も17インチ



(43cm)以上を確保している。全シートにはUSB電源が搭載されており、スマートフォンなどの電子機器の充電が可能だ。

また機内エンターテインメントに関しては手持ちのタブレットやスマートフォンを利用することで閲覧が可能。日本語吹き替え、または邦画を含め豊富なコンテンツを用意している。また、搭乗前にお好みのコンテンツを携帯端末にダウンロードして、機内で楽しむという過ごし方もおすすめです。

機内食は有料となるもののドリンク(水、お茶、紅茶、コーヒー)のサービスは無料。さらに機内への飲食物の持ち込みは自由となっており、好みの食べ物やスナックを楽しみながら機内で過ごすことができる。

さらにヴァージン・オーストラリア航空の大きな特徴といえるのが、旅客の視点に立った付加価値の高いサービスだ。同社はAirlineRatings.comの「ベスト・キャビン・クルー賞」を6年連続で受賞するな



ど、客室乗務員によるおもてなしには定評がある。

また、団体旅行での利用においては、搭乗者名を確定する前に、まとまった座席を押さえることができる。またコンパクトな機材を利用していることもあって、空港でのチェックインも比較的短い時間で行うことができるというのもメリットであるといえそうだ。

運賃形態についてもバリエーションに富んでいるのが特徴。教育旅行のみならず、より長期的な語学研修向けにも使い勝手の良い運賃を用意している点も注目点として挙げることができる。

ケアンズから オーストラリア主要都市へ円滑に接続

羽田からのフライトではケアンズには朝6時台の到着となる。そこからはシドニー、メルボルン、ブリスベン、パースを始めとしたオーストラリア各地への乗り継ぎが可能だ。

接続先のデスティネーションは教育旅行を始めとした団体旅行の定番訪問先が多く、スムーズに移動することが可能となっている。

オーストラリアへの渡航に当たって、旅客目線に立った競争力の高いサービスと羽田空港を使ってケアンズを始めとしたオーストラリア各地に快適にアクセスすることができるヴァージン・オーストラリア航空の翼に注目しておきたい。





australia

東京（羽田）↔ ケアンズ

直行便を毎日運航



事前に座席指定可能な
エコノミークラス



全座席にUSBタイプの
電源ポートとタブレットホルダー



無料のドリンク
(水、お茶、紅茶、コーヒー)

運航スケジュール

便名	出発	出発時間	到着	到着時間
VA78	東京 (羽田)	21:55	ケアンズ	06:25(翌日)
VA77	ケアンズ	13:15	東京 (羽田)	20:00

*スケジュールは予告なく変更する場合がございます。



探究的な学習に役立つ

オーストラリアの学習素材

教育旅行の受け入れに熱心なオーストラリアは、学習素材の宝庫。大都市から容易にアクセスできる場所で、自然や動植物、歴史、文化、農業、宇宙などをSDGsの観点から探究学習のテーマにすることができる。なかでも100万種の固有種が存在するオーストラリアの動植物は、その生態をひも解くだけでなく、保護活動へのアプローチも興味深い。多くの場所でその取り組みを学ぶことができる。



ノーザンテリトリー

マルク・アーツ

ドット・ペインティングを通して学ぶ伝統文化

30年の歴史をもつマルク・アーツは、900人以上のアナング族アーティストによる非営利の工芸企業。地元のアーティストからアボリジナルビーブルの伝統芸術や文化を学ぶことができ、なかでも点で絵を描くドット・ペインティングの体験ワークショップがおすすめです。



©Tourism NT / Shaana McNaught
ウルルのエアーズ・ロック・リゾートにて

Maruku Arts
<https://maruku.com.au>

カカドゥ国立公園

湿地帯巡るクルーズで独自の生態系を観察

ユネスコの世界遺産（複合遺産）に登録されており、広大な敷地は学習素材の宝庫。ハイライトは大自然の中で生息する動植物を間近に観察できるイエロー・ウォーター・クルーズだ。知識豊富な専門ガイドから生物の多様性や水路の重要性なども学ぶことができる。



©Tourism NT
イリエワニや水牛、多彩な鳥類との遭遇も

Kakadu National Park
<https://kakadutourism.com>

西オーストラリア州

サウスウェスト地区

豊かな自然の中でユニークな学習テーマを発掘

パースの南約220km、車で約2時間半の広大なエリア。パッセルトン桟橋やニルギ洞窟、野生のイルカと触れ合える施設など、歴史や文化、自然、環境をテーマとする探究学習素材が豊富だ。毎年、日本文化交流イベントが開催されるほど、親日家が多い一面もある。



パッセルトンにはシドニーから直行便も

South West
<https://www.australiassouthwest.com>

ロットネスト島

エネルギーを創出し、持続可能を目指す島に学ぶ

自然保護や再生可能エネルギーで知られるパース沖合の島。1970年代から観光の発展と共に自然を守る方法を模索し、ソーラーパネルや風力発電、海水を淡水化する施設などを順次稼働させてきた。また、先住民の流刑地としての歴史も探究学習素材として興味深い。



サステナブルな島はA級自然保護指定の国立公園

Rottneest Island
<https://www.rotnestisland.com>

南オーストラリア州

南オーストラリア博物館

400万以上の展示物を収めた歴史ある博物館

オーストラリアの自然遺産と文化遺産をアクティブに展示した自然史博物館。化石のコレクションや先住民の作品、動物や鳥類の剥製などが展示されている。博物館の秘密を解き明かすゲームに参加しながら宝探しや舞台裏を学べる仕掛けがユニーク。



©South Australian Tourism Commission
教師をサポートするための情報も提供

South Australian Museum
<https://www.samuseum.sa.gov.au>

オーストラリア宇宙発見センター

オーストラリア宇宙産業の最先端を展示

アデレードはオーストラリア宇宙庁の本拠地。同センターでは宇宙におけるオーストラリアの役割や宇宙技術をインタラクティブに展示しており、学校限定のセッションやワークショップも提供している。日本に居ながらバーチャルで展示を体験することも可能だ。



アデレードに開所した宇宙局が運営

Australian Space Discovery Centre
<https://www.space.gov.au/australian-space-discovery-centre>

ゲット・ウェット・サーフ

サーフ文化や英会話を体験できる交流の場

ゴールドコーストのサーフ文化を伝えるサーフインスクール。舞台となるスピット岬は環境保護団体が管理する自然豊かな地域で、ビーチは遠浅かつ潮の流れも緩やか。英語でのレッスンやインストラクターとの対話など、文化交流プログラムとして付加価値が高い。

Get Wet Surf
<https://getwetsurf.com>



少人数制のレッスンは初心者にも安心

オーストラリア日本野生動物保護教育財団

野生動物保護の活動を日本にも広く紹介

野生動物の保護と保護に関わる人たちを支援する教育財団。学生向けのスタディーツアーを進行しているほか、初心者向けの基礎トレーニングコースも実施している。貴重な固有種に触れたり、病院を見学したりするほか、動物倫理や福祉について学ぶこともできる。

Australia-Japan Wildlife Conservation and Education Foundation (AJWCEF)
<https://ajwcef.org>



レンジャーの指導で野生動物との触れ合いも

ニュー・サウス・ウェールズ州

カームズリー・ヒル・シティ・ファーム

教育旅行グループに対応するサステナブルな農場

シドニーから車で約1時間の歴史ある羊牧場。300頭の羊に加え、コアラやカンガルーなども飼育している。牧場では羊の毛刈りや牛の乳しぼり、牧羊犬のデモンストレーションといったショーの見学や体験ができるほか、学生向けの教育プログラムも提供可能だ。

Calmsley Hill City Farm
<https://www.calmsleyhill.com.au>



農場大国ならではのワイルドな農場体験

フェザーデール・ワイルドライフ・パーク

オーストラリアならではの動物を間近に観察

オーストラリア固有の動物260種を含む2000以上の動物たちが生息する。コアラやカンガルー、ワラビー、ウォンバット、クオッカなどの愛らしい動物と触れ合えるほか、歴史的に重要なディンゴや絶滅危惧種のヒクイドリを間近に観察できる。教育プログラムも充実。

Featherdale Sydney Wildlife Park
<https://www.featherdale.com.au>



コアラに触れて撮影もできる

ビクトリア州

フィリップ島

野生動物と接して学ぶ環境保護先進国のリアル

野生動物や環境保護に関する教育アクティビティが豊富なフィリップ島。自然のリズムを感じるペンギンパレード、コアラの生態を間近で観察できるコアラ保護センター、数々のファーム・アクティビティを提供するチャーチル島など、多くの体験プログラムがある。

Phillip Island Nature Parks
<https://www.penguins.org.au>



専属の担当者が最適なプログラムを提供

セレス環境教育センター

都市のなかで自然と調和する生活を実践・提唱

持続可能な都市ランキングのトップ、メルボルンで、その持続可能性を目の当たりにできる非営利の複合施設。都市開発により荒れた約4haの土地を地域住民が再生し、農園や植物園、ショップなどを整備して数多くのプログラムやワークショップを提供している。

CERES
<https://ceres.org.au>



約40年前に始まった環境教育パーク

タスマニア州

ポート・アーサー・ヒストリック・サイト

流刑地の歴史を刻む世界遺産を探訪

ホバートの南東約60km、タスマン半島に位置するポート・アーサーは、多くの犯罪者が送られた流刑地があった場所。「脱出不可能な監獄」といわれた史跡内には刑務所跡や独房、教会、病院などの建物があり、ガイド付きのウォーキングツアーで巡ることができる。

Port Arthur Historic Site
<https://portarthur.org.au>



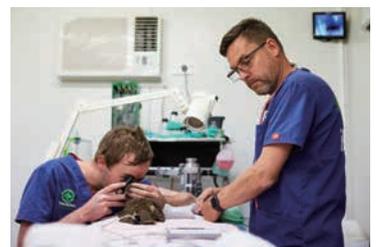
2010年、囚人遺跡群として世界遺産に

ボノロング・ワイルドライフ・サンクチュアリ

動物園とは異なる観点で野生動物を保護

ホバートの北、車で約30分の野生動物保護区。タスマニア固有種を中心に多数の野生動物たちを保護・飼育しており、24時間対応の救助サービスも行っている。野生の動物を人の手で治療する是非や社会事業として資金面の流れを考えるなど、学習テーマは豊富だ。

Bonorong Wildlife Sanctuary
<https://www.bonorong.com.au>



病院では毎週約120の動物を診察



グレート・ブルー・マウンテンズ地域



グレート・バリア・リーフ

オーストラリア流 世界遺産の学び方

オーストラリアの世界遺産は現在20を数える。そのうち自然遺産が12と多いが、文化遺産4、複合遺産4と文化的な遺産も少なくない。オーストラリアではいずれの世界遺産も遠くから眺めるだけでなく、実際にその場所を訪れ、動植物に触れたり、知識豊富なガイドと共に探索したりすることができる。

オーストラリアの世界遺産には、世界最大級の一枚岩、全長約2300kmに及ぶ珊瑚礁群、世界最古の熱帯雨林など桁外れのスケールを誇る場所が多い。小さな島や文化的建造物も含めて徹底して保護されているが、多くの場所で旅行者や教育旅行に対応する受け入れ体制が整っている。

例えば広大なグレート・バリア・リーフでは、ケアンズやポート・ダグラスといった街を発着するクルーズ船に乗り込めば、シュノーケリングやダイビングで透明度の高い海の中へ入っていくことができる。教育旅行グループには特に受け入れ施設が整っている

珊瑚礁の島、グリーン島がおすすめた。

オーストラリア中央部の砂漠地帯に突如として姿を現す一枚岩のウルルも、ただ眺めるだけの世界遺産ではない。周囲のトレッキングコースを歩くだけで赤土の大地や固有の植物に触れることができ、大小36の奇岩が並ぶカタ・ジュタを含め、独自の景観を目の当たりにすることができる。また、この土地は先住民アボリジナルピープルの聖地。彼らが長い時をかけて積み重ねてきた歴史や文化の一端をさまざまなプログラムを通して体験することも可能だ。

オーストラリアを代表するアイコン、シド

ニー・オペラ・ハウスもまた、記念写真を撮るだけでももったいない。こだわりの建築様式や完成までの歴史を学びながら劇場内部を見学できるガイドツアーが実施されていて興味をそられる。斬新な外観や壮麗な内観にインパクトを受ければ、将来オペラやコンサートを鑑賞するためにリピーターとなる学生も少なからず現れそうだ。

ほかにも、熱帯雨林のトレイルを歩いたり、ユーカリの森を探索したりと学習プログラムは多種多様。19世紀の万博の歴史を辿ることができるメルボルンの優美な建築物も探究学習のテーマになりそうだ。



アナンゴ族の文化を体験



ウルル-カタ・ジュタ国立公園



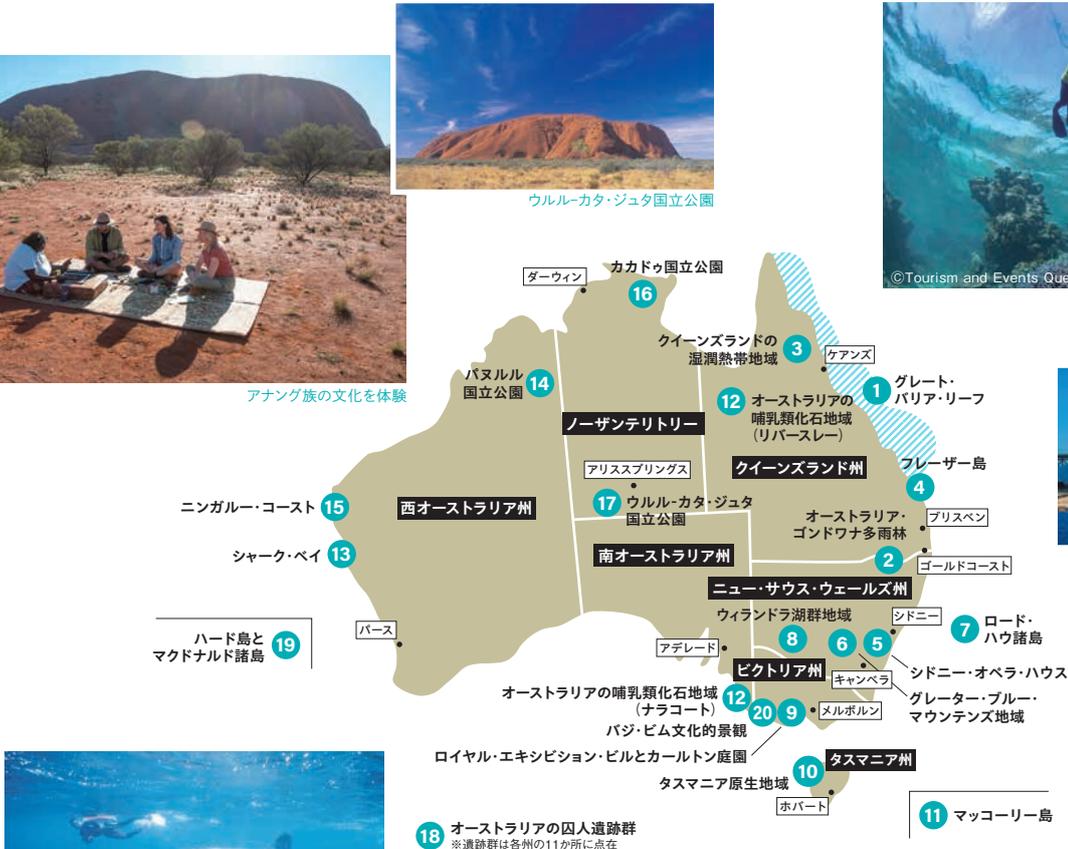
世界遺産の海へダイブ



シドニー・オペラ・ハウス



ガイドツアーで内部を見学



ニンガルー・コースト



ナラコート/オーストラリアの哺乳類化石地域



ロイヤル・エキシビション・ビルとカルトン庭園



タスマニア原生地域

オーストラリアのアイコンであり、アボリジナルの聖地として知られるウルル。今なお自然と共存するアボリジナルの人たちと触れ合い、何万年にもわたりの聖地が守られてきた文化的背景を知ることは、サステナビリティや異文化との共生について体験を通じて学ぶ貴重な機会となる。アボリジナルの人々が大切にしてきた大自然にはオーストラリア特有の多様な生態系も残されており、オーストラリアの文化と自然を複合的に学習できる素材が豊富だ。



© Tourism NT / The Salty Travellers

本物のアボリジナル文化と雄大な自然を学ぶ

体験を通じサステナビリティや異文化共生を学習できる豊富な素材

おすすめ素材 01

アース・サンクチュアリ

多くの人々がイメージするオーストラリアらしい雄大な自然を体験できるアウトバックサイト。ノーザンテリトリーで初めてカーボンニュートラルを達成した施設で、オーストラリアで環境関連の賞をいくつも受賞するサステナブルなアウトバックサイトとしても知られている。アリス・スプリングス中心部から車で約15分という抜群のロケーションにあり、イーストマクドネル山脈を見渡せるこの施設では、光害の少ない環境での知識と経験豊富なガイドによる天体観測ツアーが体験できる。その他、惑星や星座だけでなく、暗黒星雲や、ガスや塵が蓄積し自らの重力で収縮するとそこから新しい星が生まれることなど、あまり知られていない現象についても学ぶことができる。天体にまつわる話なども交えた環境教育プログラムなども提供している。



© Tourism NT / Shaana McNaught

<https://www.earth-sanctuary.com.au/>

おすすめ素材 02

カンガルー・サンクチュアリ

野生動物保護活動家のクリス・バーンズ氏が設立した施設で、負傷したり親を失ったりしたカンガルーの保護や救助に加え、オーストラリア固有の野生動物の保護を行っている。教育と啓発活動にも注力しており、カンガルーに関する教育プログラムを提供している。カンガルーは日中寝ていることが多いため、活動が活発になる夕方からガイド付きのサンセットツアーを実施。野生動物保護区でもあるサンクチュアリ内を散策しながらオーストラリアの生態系や野生動物の現状を学びつつ、活発に動き回るカンガルーの様子を観察でき、カンガルーと触れ合うことも可能だ。所要時間は約2時間半～3時間で、2024年7月まで受け付けている。なお、4月、5月、12月、1月はツアーを催行していない。



© Tourism NT / Helen Orr

<https://kangaroosanctuary.com/>

おすすめ素材 03

ウルル ベースウォーク(ウルル、アボリジナル文化)

ウルルの魅力を最も簡単に感じられるのが、ウルルの麓の散策(ベースウォーク)だ。ウルル周辺には魅力的なブッシュウォークのコースが点在。例えばウルルの北側にあるループコースを歩くマラウォーク(約2km)は、駐車場からカン



© Tourism NT

ジュの泉までの散策路で、数々のアボリジナルのアートを楽しむことができる。散策路の折り返し地点にあるカンジュ渓谷には高さ90mの滝があり、大雨後には大迫力の瀑布となる。ウルル南側のクニヤウォーク(約1km)では、一部がハート型に浸食された様子を見られるなど、ウルルが一枚岩であることによる圧倒的な光景を楽しめる。砂漠地帯にありながら枯れることのないムティジュルの泉を目の当たりにすると、ウルルがアボリジナルの聖地であることを理解できるだろう。

<https://northernterritory.com/jp/ja/uluru-and-surrounds/uluru-region-guide>

おすすめ素材 04

ディジュリドゥ ワークショップ

アボリジナルピープルの代表的な民族楽器「ディジュリドゥ」は、ノーザンテリトリーの東アーネムランドが発祥の地とされている。主にアボリジナルピープルが祭りや儀式的場で使用してきた楽器で、音楽とともに伝統を伝える手段としても使用されるなど、文化的に重要な役割を担ってきた。なお、ディジュリドゥの東アーネムランドでのアボリジナルによる呼称は「イダキ」だ。



© Tourism NT / Tourism Australia

エアーズロックリゾートでは、ディジュリドゥの演奏方法を学んだり、その歴史や文化的背景を学んだりできるディジュリドゥワークショップが開催されている。また、アボリジナルの歌やダンス、ディジュリドゥの制作工程を学べる機会が提供されることもある。ワークショップは毎日11時と15時の2回行われ、所要時間は約45分。

<https://www.ayersrockresort.com.au/experiences/didgeridoo-workshop>



オーストラリアを代表する都市、シドニーはビジネスや文化の中心地として、多くの学びの機会にあふれている。また市中心部を離れて郊外へ足を運び、オーストラリアならではの動物や景観に触れる体験は、生態系や自然環境への関心を高めるきっかけとなるはずだ。



©Destination NSW

ニュー・サウス・ウェールズ州の教育旅行向けアクティビティー

BLUE MOUNTAINS

ブルー・マウンテンズ・スターゲイジング(星空観賞)

世界自然遺産で無限の宇宙に想いをはせる



©Destination NSW

世界自然遺産の国立公園、ブルーマウンテンズでの満天の星空観賞。北半球とは上下逆の星座や、天の川を肉眼で見たり、月のクレーターを天文学者の案内で望遠鏡観察する体験は、天文学や宇宙等の自然科学への関心を高め好奇心を刺激するはず。

Blue Mountains Stargazing

<https://www.bluemountainstargazing.com.au>

PORT STEPHENS

ポート・ステイプンス・コアラサンクチュアリ

コアラのリハビリ施設で学ぶ野生動物保護の重要性



©Destination NSW

ケガや病気で傷ついたり、孤児になったコアラに治療やリハビリを施し可能な限り野生に戻すためのコアラ保護区。来園者はガイドツアーを通じ動物保護や生態系の重要性について学ぶ。全長225mの高架通路「スカイウォーク」や展望台からは、樹上のコアラと同じ目線で生態を観察できる。

Port Stephens Koala Sanctuary

<https://portstephenskoalas sanctuary.com.au>

CENTRAL COAST

オーストラリアン・レプタイル・パーク

体験型動物園で爬虫類との触れ合い体験



©Destination NSW

セントラル・コーストにある爬虫類主体の動物園で、カモノハシ等を含むオーストラリア固有種等も合わせて2000種以上の動物を飼育。「ビハインド・ザ・シーン・エンカウンター」プログラムでは、抗毒血清を作るためにヘビやクモから毒を搾る作業も見学可能。巨大なガラパゴスゾウガメと写真撮影したり、クロコダイルのショーも観賞できる。

Australian Reptile Park

<https://www.reptilepark.com.au>

SYDNEY

シドニー・クリケット・グラウンド・ツアーズ

スポーツ王国で学ぶスポーツ文化とイベントビジネス

オーストラリアは、スポーツ文化やスポーツイベント関連ビジネスの先進国。教育旅行にはシドニー・クリケット・グラウンド(SCG)と、隣接するフットボール競技場のアリアンツ・スタジアムを対象とするガイドツアーが最適で、各施設の舞台裏を見学したり、二つの施設に加えSCGミュージアムも見学する2時間のプログラムもある。



©Venues NSW

Sydney Cricket Ground Tours

<https://sydneycricketgroundtours.rezdy.com/index>

SYDNEY

ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館

芸術や創作の意味や楽しさを学ぶ

設立150周年を記念して2022年12月に増築された日本人建築家の設計による新館は、草間彌生氏のフラワー・スカルプチャーの野外展示でも知られる。特別展示を除き入館は無料。オーストラリア国内および海外からの美術品が二つの建物に多数展示されている。



©Destination NSW

Art Gallery of New South Wales

<https://www.artgallery.nsw.gov.au/visit/plan-your-visit/information-in-other-languages/japanese/>



ニュー・サウス・ウェールズ州は、農業や教育の面でもオーストラリアを代表する存在だ。このため農業視察や農業系の教育旅行の適地となっている。加えて国際的に開かれた大学をはじめとする高等教育機関があり、語学研修や留学プログラムも充実している。



ニュー・サウス・ウェールズ州の視察・研修プログラムと教育機関

RIVERINA

アグリカルチュラル・ツアーズ・リベリナ

オーストラリア農業の中心地で現代農業を学ぶ



ニュー・サウス・ウェールズ州南西部のリベリナ地区は、国内の米生産の95%を占めるほか、穀類、ナッツ、柑橘類、各種野菜等を生産し、酪農や畜産、養蜂、ワイン製造も行う農業の中心地だ。変化に富む土地で多彩な農業が営まれ、灌漑農業や乾燥地農業などの技術が発達。多様な作物に合わせた食品加工や輸送・物流など農業関連ノウハウの蓄積も特徴で、農業の技術専門家や投資家の視察旅行、高校・大学の教育旅行の適地となっている。リベリナを拠点にアグリツーリズムを展開するのがアグリカルチュラル・ツアーズ・リベリナ。実績と人脈を生かし60社以上の農業事業者と連携。農業関連の幅広い視察・教育ツアーに対応している。北海道の農家によるリベリナの米作り視察旅行をアレンジした実績もある。また近年はオーガニック農業やリジェネラティブ農業に特化したツアー手配も開始している。

Agricultural Tours Riverina
<https://www.agriculturaltoursriverina.com.au>

Study NSW

留学生の「暮らす・学ぶ・働く」を支援するためにニュー・サウス・ウェールズ州政府が設立。州内には国際的に評価される12大学、職業専門学校、英語学校があり世界で活躍する卒業生を輩出している。世界の「住みやすい都市」4位でトップ7の学生都市でもある

るシドニーや、西シドニー、ニューカッスル、ウーロンゴン、ノースコースト、カンタリー地域の6エリアを中心に学生の受入環境が整う。ニュー・サウス・ウェールズ州への留学に関してはウェブサイトをご覧ください。

<https://www.study.nsw.gov.au>



JERVIS BAY

ディスカバー・ジャービス・ベイ教育プログラム

アボリジナル文化と海洋生物に親しむ体験

1年を通じて海洋哺乳類が観察できるジャービス・ベイでのお勧めは、シドニーからの日帰りプログラム。エコ認定を受けた90分のドルフィン・ウォッチ・クルーズと、アボリジナルピープルとの交流を含む90分のアボリジナル体験教育プログラムなどを組み込んでいる。

Discover Jervis Bay <https://www.discoverjervisbay.com.au>



NEWCASTLE/WOLLONGONG

ニューカッスル大学とウーロンゴン大学

国際色豊かなキャンパスで留学や語学研修

シドニーから2時間。州内第2の都市にあるニューカッスル大学は、約80国から来た6000人の留学生を含む合計3万人が学ぶ国際色豊かな大学。国外の学生向けには1または2セメスターのスタディ・アブロード・プログラムがあり短期の留学期間を選択できるのが特徴だ。

University of NEWCASTLE <https://unewcastle.jp>

シドニーから1時間半、州内第3の都市にあるウーロンゴン大学は、世界大学ランキング2024では世界の大学上位1%に入る162位にランクされている。大学付属の語学学校、UOWカレッジでは英語学習のために数日間から参加できるスタディーツアーがあり、ホームステイプログラムも利用できる。

University of WOLLONGONG <https://www.uow.edu.au>



ウーロンゴン大学 ©Destination NSW

日本から西オーストラリア州への教育旅行のプロフェッショナルであるゴールドエデュケーションツアーズ（ゴールド社）は、そのゴールド社では現在、新たに西オーストラリア州を選ぶ学校が増加、予約状況も過去最高だった2019年に迫る勢いとなっている。この背景にあるのはパースと西オーストラリア州ならではの有利な環境と、ゴールド社が誇るホストファミリーの数と質、そして日本市場における深い知見。探究学習のトレンドも追い風として更なる成長が期待される西オーストラリア州の強みを見てみよう。



西オーストラリア州が今選ばれている理由 探究学習など新プロダクト充実で学習効果さらにアップ 観光人材育成や「サウスウェスト」地区強化など新企画続々

受入体制充実、負担減で差別化も

教育旅行における他国・他州と比べた西オーストラリア州の強みとはなにか。

まず、他州の多くでは学校訪問などで州政府の教育省を介す必要があるが西オーストラリアでは不要。ゴールド社などオペレーターが間に入ることでスムーズに手続きが進む。加えて「15名ごとにエスコート1名」といった制限もなく、学校と旅行会社にとって負担の少ない環境が整っている。



成長著しいパースは、オーストラリア随一の晴天率の高さも武器に

また、コロナ禍を経て他国・他州で続いていたホームステイや学校訪問のプログラムが立ち消え、それに代わって受入体制が整っているパースが浮上している例も。

人口増に伴って学校数も増えるなど受け皿も拡大し続け、ダイナミックに発展する地域を見せたい、他校と差別化したいといったニーズも大いに追い風となっている。

ゴールド社のキャパシティも魅力

教育旅行の目玉のホームステイも充実。日本から西オーストラリア州への教育旅行のスペシャリストとして20年の歴史を誇るゴ

ールド社では現在2000家庭と契約。それによりシングルプレイスメント（1家庭に生徒1名）が可能なのもゴールド社の強みで、貴重な機会に生徒一人ひとりが得られるものを最大化したい保護者や学校の思いに確実に応えることができる。



GOLD社の2024年の予約状況はすでに過去最高だった2019年の8.9割と好調に推移。新規顧客の獲得も進んでいる

なお、ゴールド社はホストファミリーについて3段階の審査を経た家庭のみと直接契約することで高い体験品質を確保している。

探究学習研修の豊富な経験

2022年度から「総合的な探究の時間」が必修科目となってますます注目が高まる探究学習だが、ゴールド社はこのトレンドにも抜かりなく対応している。

探究学習は「総合的な学習」とも表現されるもので、激しく変化する社会のなかで生徒自らが課題を見つけ、情報の収集や精査、再構築、他者との協働などを通してその課題の解決を目指す総合的な力を身につけようとするものだ。

これに対して2004年の創業時から「日本の学生の自己成長を促す貴重な経験を作る」ことを事業の根幹に据えているゴールド社では、長年の知見や経験に加えて近年さらに探究学習への対応を強化。英語学習は当然として、生徒の思考力やリーダーシップ、コミュニケーション能力を高めることのできる研修の実現に貢献している。

日本市場のためだけの手厚いサポートで高評価

日本市場に特化して事業を展開するゴールド社は、日本の学校や旅行会社の「かゆいところ」に手が届くサービスが自慢。

24時間365日の現地サポートや100%自社手配による品質管理・緊急対応のほか、専属スタッフによる動画撮影・編集サービス、ホームステイ書類のオンラインフォーム化による学校や旅行会社の負担軽減、プレゼンから事前学習まで各段階でのオンラインサポートや豊富なメディアライブラリも喜ばれている。

もちろん地域密着型の企業として日系企業では難しい手配力も備える。学校の要望や教育方針を聞き取った上でそれに応じて多様なツアーを企画している。



日本人&日本語話者スタッフも多数所属

カーティン大学でのSTEM教育

例えば工科系屈指の大学であるカーティン大学では、海面上昇によって水上生活を強いられる可能性という課題に対し一定の予算内で浮き橋を作り耐久性を競う、あるいは食料の安定的確保を課題としてプログラミングの技術を用い雑草を探索するロボットを操作するなど、環境学習を中心としたSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 教育のアクティビティを多数用意。

また、カーティン大学が米航空宇宙局 (NASA) と共同で宇宙研究を実施していることから、その研究内容を反映して身近な材料でウォーターロケットを設計・制作して飛行実験を行うプログラムも。

各プログラムは最大30名程度を上限にグループに分かれて実施し、所要時間は約2時間。指導は大学スタッフや大学院生などが担当する。



ゴールド社が提携する大学・高校の数は合計で60超。学校数自体の増加を背景にさらなる拡充にも意欲的だ

ユースリーダーが成長をサポート

また、同社の強みの一つが現地の意欲ある学生を採用・教育している「ユースリーダー」とのアクティブラーニング。

大学のキャンパスや街なかで、ユースリーダーとともに与えられたミッションをクリアしながらゴールを目指すので、生徒たちはリーダーや道行く人々に質問したり意見を交わしたりすることが求められるため、自然と積極的にプログラムに参加することになる仕組み。リーダーは生徒5~7人程度に1人の割合で配置する。

リーダーたちは日本の学生の特徴や文化的背景について研修で学んでおり、自らの経験やスキルアップの機会として意欲を持ち、担当する生徒に限られた英語力しかなくても楽しく活動できるような雰囲気づくりやコミュニケーションについてもトレーニングを実施。



ユースリーダーは現地の大学生以上の生徒を中心に採用。同世代の若者によるサポートを通してプログラムの効果を最大化する

アクティブラーニングのプログラムは、数時間のものから数日間の本格的なグループワークセッション、野外キャンプ体験などその幅の広さも魅力。

また、グループサイズに応じてカーティン大学のSTEMプログラムとアクティブラーニングをローテーションで実施するなど効率的な展開が可能なのも強みと言える。

ロットネスト島でも「探究」可

こうしたプログラムは、「世界一幸せな動物」として人気抜群のクオッカが暮らすロットネスト島でも可能。島の流刑地としての過



ロットネスト島では再生可能エネルギーによる海水の淡水化やゴミ削減、リサイクルなどでも先進的な取り組みを進め国内でも高く評価されている

去や戦時下の歴史を元にしたフィールドワークで平和について考えたり、島の資源や海洋環境についての学びからオーストラリアの水事情や再生可能エネルギーの活用状況を学んだり。また、パースを象徴するキングスパークや、約200種類の動物を飼育するカバシャムワイルドライフパークでの研修プログラムも用意されている。

このように、西オーストラリア州では学生にとって一生に一度の研修旅行を最大限楽しみつつ着実に成長できる万全の環境とプログラムが整っているのだ。

観光人材育成の新プログラムも

21世紀における日本の政策の柱と位置付けられた観光。教育の世界でも2022年度に高等学校商業科で「観光ビジネス」の科目が導入されるなど注目が高まっている。

そうした中でGOLD社では、次世代の観光産業を担う若者に向けた新プログラムを準備中。観光関連の課題を抱える地域の学生や、将来観光関連ビジネスの起業を志す学生などをターゲットとし、西オーストラリア州での取組事例を学びながら日本での課題解決について考える内容とする。

例えば観光先進国オーストラリアでの課題や今後の可能性、マーケティング事例などについて関係者からのヒアリングや視察を実施。また訪日旅行についての調査や消費者へのプレゼンテーションも予定する。

自ら課題を見出し工夫を凝らして解決を目指すのは探究学習そのもの。観光人材の育成だけでなく、社会や産業を知るキャリア教育の一環として幅広い学生にも適したプログラムとする計画で、2024年秋頃の開始を予定している。



観光は地域活性化の柱であり、その観光を牽引できる人材の価値は今後ますます高まっていく。GOLD社は先手を打って対応を進めていく考えだ

サウスウエスト&スポーツ研修で新たな需要獲得へ

ゴールド社が現在特に力を入れているのが、州南西部「サウスウエスト」地区における受入体制の強化。都会的なパースに加えて地方ならではの体験を取り揃えることで、より幅広い教育旅行を提供できるようにする。

同地区の中心はバスセルトンやバンソバリー。バスセルトンはパースから車で約2.5時間、ジブリの「千と千尋の神隠し」でモデルになったとも言われる栈橋が有名だ。

最大の魅力は住民たちの暖かい気質で、心からのおもてなしが待つ。すでに規模の大きなグループの受け入れも実現しており、2024年1月には早稲田渋谷シンガポール校から100名強が現地を訪れ、バスセルトンでホームステイも実施した。

また、研修テーマの拡充にも意欲的で、最新の例ではスポーツをテーマとした研修の提案も開始。ラグビーやサッカー、バスケットボール、テニスなど日本での競技人口が多くオーストラリアが一定以上の強豪国として認知されているスポーツについて、日本から学生団体を受け入れ、合宿や親善試合、現地で活躍するプロチーム関係者からのトレーニングなどを組み合わせて提供していきたい考え。

さらにSTEMに教養・芸術 (liberal Arts) を加えた「STEAM教育」への対応も進めている。



紺碧のインド洋に張り出すバスセルトンジェティ。南半球で最も長い栈橋として知られる

各種資料&お問い合わせ先

西オーストラリア州政府観光局 (TWA) とゴールド社では、教育旅行に役立つ各種情報をオンラインで発信中。お問い合わせはGOLD社公式サイトへ。

TWA
公式サイト



GOLD社
公式サイト



GOLD社
Instagram





教育旅行の目的地として人気の高いオーストラリア。なかでもビクトリア州は、高い学習効果を求める教育旅行に最適だ。さまざまな文化が共存する世界有数の多文化都市、州都メルボルンでのグローバル体験、そしてメルボルンから少し足を伸ばしただけで、大自然が広がる。教育レベルの高さもオーストラリア随一だ。

高い教育レベル、すぐそばに大自然！ 直行便でメルボルンへのアクセスが大変便利

ビクトリア州、メルボルンへの教育旅行をお薦めする4つの理由

01 世界で一番住みやすい都市「メルボルン」

メルボルンはビクトリア州の州都で、19世紀の面影を残した建造物と近代的な建造物が融合した街並みが魅力の都市。別名「ガーデンシティ」とも呼ばれるほど緑豊かな公園が点在し、イギリスの英誌エコノミストの調査部門がまとめている「世界で最も住みやすい都市」ランキングでは2011年から2017年まで連続1位に選ばれているほど。治安の良さ、医療水準や教育の高さ、文化、インフラなど、安心/安全はお墨付き。

02 すぐ近くに豊かな自然

03 直行便でアクセスが大変良い

現在、カンタス航空と日本航空が東京（成田）ーメルボルン間直行便を運航中。乗り換え不要で、メルボルンへのアクセスはとても便利。他都市からでも東京経由、アジア経由便でアクセスが大変良い。

04 大変親日的なメルボルン

メルボルンには親日家が多く、日本の地方自治体や学校との交流も盛ん。日本語教育も進んでおり、また小学校から大学まで、多くの学校で日本語を教えている。日本語は最も人気のある第2外国語のひとつ。また日本語が通じる医療機関もあり、もしもの場合でも安心して滞在ができる。

おすすめ教育プログラムと素材

多文化やライフスタイルを通して国際意識を体感

スタディーツアー



ビクトリア州政府教育訓練省が提供する短期研修旅行。専属の教師による英語の授業だけではなく、専門分野を学んだり、現地の学生と交流したり、ホームステイなどを通して、総合的にオーストラリアのユニークな文化に触れ合うことができる。期間は3日間～12週間程度で、グループの目的や規模、予算に合わせて自由に組み立てることが可能だ。

www.study.vic.gov.au/jp/international-student-program/study-tours/Pages/default.aspx

グローバル人材育成のためのインターンシップ・プログラムも

オージーハウス・グループ (OZiHOUSE Group)



メルボルン最大規模の学生向けサービスおよび宿泊施設を展開。「OZi VILLAGE」(学生シェアハウス&学生寮)は、メルボルン中心部に近く、親子留学にも最適。また「OZi HOMESTAY」はホームステイ・プログラム、「OZi EXPERIENCE」は教育ツアーや企業訪問、インターンシップ・プログラムをそれぞれ提供する。特にGlobal Citizen Programの一環であるインターンシップ・プログラムは大変好評で、課題解決型学習を重視し、コミュニケーション力、異文化への理解、実践的なスキルを身につけ、グローバルに通用するCitizen Developmentを可能とするようデザインされている。

ozihouse.com

ファーム滞在とステイ先での交流は貴重な体験に

ファームステイ



ビクトリア州ではメルボルン近郊のカウントンやバラットの牧場や農園を紹介。代表が日本に滞在していたこともあり、日本人学生の特徴を良く把握している。受け入れ人数は最大500名と大型の研修旅行にも対応可能。滞在できるファームは牧場や農園など多彩なラインアップ。各生徒は安心の環境の中で思う存分ファーム生活をエンジョイできる。ファーム滞在とステイ先での交流は、生徒達にとって学習以上の貴重な体験を得ることができるだろう。

www.downunderfarmstays.com.au/ja

職業体験、異文化交流で満足度の高いプログラム

グローバル人材育成プログラム by DOA



世界を舞台に活躍できる人材育成を目的に、専任トレーナーによる事前研修で学生それぞれの目標や課題を明確にし、それらを達成するための現地研修プログラムとサポートを提供。職業体験を通してグローバルスキルを養う「ワークエクスペリエンス」では、各大学、企業のニーズに合った多種多様なアレンジが可能。また短期集中型の「異文化体験」「フィールドワーク」は、市内ウォークラリーや現地大学生との交流、現地校/企業訪問、ボランティアなど、さまざまなグループ活動を通して、異文化理解や適応力を身につけ、語学力とコミュニケーション能力を伸ばす。途中評価やフォローアップがしっかりしているので、満足度も高い。

www.doa.com.au

メルボルン中心部には 教育素材がたくさん!!

基盤の目のように通りが並ぶメルボルンの中心部。大変歩きやすく、市内の研修スポットを巡ることができる。またトラムも利用すると、より効率的に時間を活用できる。乗り方も容易なので、初めてメルボルンを訪れる学生でも気軽に利用できる。なお、市内中心区域、及びドックランド地区内は、すべてのトラムの乗車が無料!リーズナブルでより充実した市内研修やオリエンテーションを提供できる。



① クイーン・ビクトリア・マーケット

南半球最大規模の歴史あるマーケット。生鮮食品から日用品、土産物、衣類など、多種多様な店が600軒も集まるスポットとなっている。



② ビクトリア州立図書館

1854年に完成した「世界で最も美しい図書館のひとつ」とも呼ばれる図書館。ラトロブ閲覧室 (La Trobe Reading Room) は最上階の6階まで吹き抜けとなっている圧巻の空間。



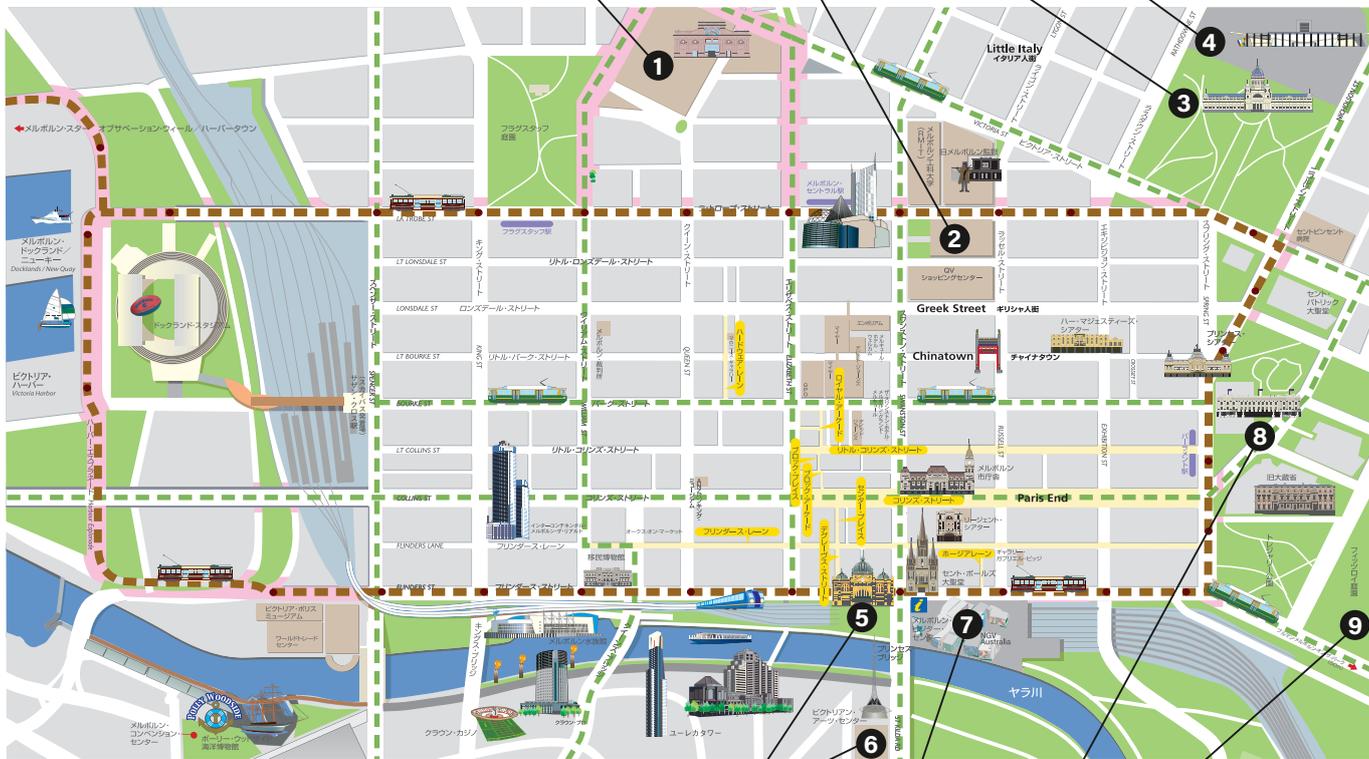
③ 王立博覧館とカールトン庭園

1880年の万国博覧会のために建てられた優美な建物。現存する世界最古の万博会場の建物で、2004年には国内初の世界文化遺産に登録された。



④ メルボルン博物館

カールトン庭園に位置する南半球最大の博物館。歴史や生物、恐竜の化石、アボリジナル文化といった幅広いテーマを興味深く知ることができる。



⑤ フリンダース・ストリート駅

1854年に完成したオーストラリア国内初のターミナル駅。威風堂々の外観はメルボルンにおける恰好のフォトスポットに。街歩きの起点に適している。



⑥ ビクトリア国立美術館

1861年にオープンしたオーストラリア最古の美術館。ヨーロッパやアジア、アメリカなど、世界の美術作品を幅広く収集、その数は7万点以上と見応えたっぷり。



⑦ フェデレーション・スクエア

ガラス張りの外観が目を引く、文化の総合発信施設。美術館やアボリジナル文化を紹介する施設があり、メルボルン滞在中の強い味方となる。



⑧ ビクトリア州議事堂

1857年に建設された華麗な柱頭が特色のギリシャ神殿を思わせるコリント様式の建物が美しい。首都がキャンベラに移る1927年まで、国の連邦議事堂として使用されていた。



⑨ キャプテンクックの家

イギリスにあったジェームス・クック船長の生家を移築。フィッツロイ庭園内にあり、1700年代の暮らしに触れることができる。

MELBOURNE
EVERY BIT DIFFERENT

ビクトリア州政府観光局

電話(東京) 03-6257-1080

Email japan@visitvictoria.com.au

ウェブサイト jp.visitmelbourne.com



東京から オーストラリア3都市へノンストップ カンタス航空で行くオーストラリア

東京(羽田/成田)からオーストラリア3都市(シドニー、ブリスベン、メルボルン)へ、週28便*の直行便を運航するカンタス航空。オーストラリアへは、乗った時からオーストラリア気分になれるカンタス航空がおすすめだ。

SCHEDULE

利便性の高いスケジュール

カンタス航空のフライトは、東京を夜に出発、翌朝現地に到着するので、到着初日からたっぷりオーストラリアを満喫できる。また羽田—シドニー線は、夜だけでなく羽田を朝に出発するフライトもあるので、ニーズに合わせてフライトを選択できるのも魅力だ。

カンタス航空日本路線 (2024年4月7日から10月4日まで)

羽田—シドニー線 便利な羽田発着、朝発と夜発から選べる1日2便

便名/運航区間	運航スケジュール	使用機材	運航曜日
QF26 羽田 → シドニー	08:35/19:25	A330	毎日
QF60 羽田 → シドニー	22:00/08:55 +1	A330	毎日
QF59 シドニー → 羽田	11:10/20:10	A330	毎日
QF25 シドニー → 羽田	20:55/05:55 +1	A330	毎日

成田—ブリスベン線 成田発着の毎日1便

便名/運航区間	運航スケジュール	使用機材	運航曜日
QF62 成田 → ブリスベン	21:30/07:25 +1	A330	毎日
QF61 ブリスベン → 成田	10:30/18:45	A330	毎日

成田—メルボルン線 成田発着の毎日1便

便名/運航区間	運航スケジュール	使用機材	運航曜日
QF80 成田 → メルボルン	20:25/07:45 +1	A330	毎日
QF79 メルボルン → 成田	09:25/19:00	A330	毎日

*+1:翌日着 ※スケジュール、機材は予告なく変更になる場合があります。

NETWORK

オーストラリア国内へ充実のネットワーク

カンタス航空は、オーストラリアの航空会社として、オーストラリア国内線の充実したネットワークを誇る。シドニー、ブリスベン、メルボルンから、オーストラリア各地へスムーズにアクセス可能。乗り継ぎ便も豊富にあるのが大きな強みだ。

また、日本各地から日本航空またはジェットスタージャパンの国内線を利用して、羽田または成田経由で乗り継げる点も便利だ。



ECONOMY CLASS

快適な座席でゆったりとくつろげる エコノミークラス

人間工学に基づいて設計されたゆったりとくつろげるシートで、豊富な機内エンターテインメントが楽しめる。ボリュームのある機内食は3種類から選べ、オーストラリア産のワインも豊富にラインナップ。搭乗した瞬間からオーストラリアを感じることができる。

運賃に受託手荷物が含まれているので、日本発オーストラリア行き航空券の場合、エコノミークラスでは個数制限なしで総重量30kgまで無料と安心。



BUSSINESS CLASS

離陸から着陸までリクライニングが可能 ビジネスクラス

全席通路に面したビジネススイートは、離陸から着陸まで、専用のマットレスを付けたままフルフラットベッドでのリクライニングが可能で、PC電源とUSBポートも完備。収納可能なタッチパネル式モニターでは、豊富なエンターテインメントを周辺の音を軽減する機能付きのヘッドフォンで楽しめる。

また、コットン100%のパジャマやサステナビリティを意識したアメニティキットを用意。オーストラリアの人気シェフ、ニール・ペリー氏がプロデュースした機内食もぜひ味わいたい。出発前は、ビジネスラウンジでゆっくりとくつろぐことができる。

なお、ビジネスクラスでは、日本発オーストラリア行き航空券の場合、個数制限なしで総重量40kgまで無料だ。



ブリスベン空港 カンタス ビジネスラウンジ

INITIATIVES FOR SUSTAINABILITY

地上から空の上まで カンタス航空が取り組むサステナビリティ活動

カンタス航空は、2050年までにネットゼロ・エミッションを達成することを掲げ、サステナビリティ活動に力を入れている。オーストラリア最大級のカーボンオフセットプログラムの創設、廃棄物と使い捨てプラスチックの削減、環境を考慮した航空機やSAF(持続可能な航空燃料)への投資などの活動を通じて、旅の未来を守る取り組みを進めている。環境保全への意識が高いオーストラリアの航空会社として、カンタス航空の旅の未来を守る活動に今後も注目だ。

2030年までの暫定目標



CO2排出量
25%削減
(2019年比)



航空燃料の
10%をSAFに



年平均
1.5%の
燃費改善



使い捨て
プラスチックの
使用ゼロに
(2027年まで)



廃棄物の
埋め立て
ゼロに

廃棄物の削減に向けた取り組み

1 印刷物の削減

搭乗券をアプリ上で表示、エコノミークラスの紙メニューを廃止し、機内モニターで表示

2 使い捨てプラスチックの使用削減

機内食のカトラリーを木製(写真)に、ラウンジでは使い捨て食器の使用を取り止めることで削減



SAFへの投資



イメージ

ユーカリや使用済み食用油から作ることができるバイオ燃料として注目を集めるSAF(持続可能な航空燃料)。SAFは従来のジェット燃料と比べ、最大80%までCO2排出量を削減できると言われている。また長距離フライトにも使用できる高い安全性が認められている。カンタス航空では2030年までにSAFを10%、2050年までに60%使用することを目指している。

次世代航空機への投資

カンタス航空では、2034年までにエアバス社より環境に考慮した100機以上の新型機を導入する予定。環境に優しい次世代航空機は、燃費効率の改善によりCO2排出量の削減が期待できる。例えば、A220-300型機は、従来機(ボーイング717型機)と比較して、乗客1人あたり25%の燃料削減効果が期待できる。





カンタス航空と守る 旅の未来

空においても地上においても
私たちは環境への影響を少なくする取り組みを行っています。

環境に配慮したカンタス航空で
オーストラリアを冒険する旅に出かけましょう。



<https://www.qantas.com/>